

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2191100052 | | |
| 法人名 | 株式会社総合福祉ひまわり | | |
| 事業所名 | グループホーム市之倉ひまわり | | |
| 所在地 | 多治見市市之倉町13丁目83番地の353 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年3月12日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年4月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100052-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 令和5年3月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>入居者様、御家族様、スタッフが極力近い距離で居られるよう、御家族様との連携を密にし、家庭的な温もりのある雰囲気作りをを大切にしている。長く勤めている介護職員も多く、入居者様の小さな変化に気付く力がありチームワークも強い。又看取り介護も対応しており最後までその人らしく最期を迎えられるように努めている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>法人は、複数の介護サービス事業を展開し、地域住民の介護に関する相談窓口的な役割も果たしている。隣の幼稚園の園児たちの明るい笑い声がこだまする環境にあり、利用者と園児との交流も行っている。毎月、利用者の日常生活の様子や、事業所行事を記載した便りを家族に送付している。家族からの希望で、利用者の馴染みの友人への送付依頼にも応じている。介護経験を積んできた職員が、アイデアを出し合っって工夫をしながら、利用者が笑顔で過ごせる支援となるよう取り組んでいる。ホームページから法人や事業所情報等を確認した就職希望者もあり、採用に繋がっている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価票

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 共有できるように努力している。職員会議で確認し職員は日常の支援の中でお互いが理念に叶った支援をしているかどうかを指摘している。 | 「利用者の尊厳と笑顔あふれる介護」を理念に掲げ、職員の目につきやすい場所に掲示し、日々確認している。職員会議や申し送りで理念の実践ができていないかを振り返り、意見交換を行いながら共有している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在コロナにて町内の行事等中止している事が多いが、今後の再開に期待していきたい。 | 自治会からの回覧や広報で、地域の現状は把握できるが、コロナ禍で地域行事等が中止となっている。以前は地域の草刈り活動にも参加していたが、現在は、事業所周辺を清掃するなど、地域の美化に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 職員募集の広告に、介護にお困りの方何時でも相談にのる事を記載している。実際に退去された御家族様からも相談がある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により、書面による運営推進会議を行っており、質問や御意見を頂き、サービス向上に活かしている。 | 運営推進会議は年6回開催しているが、現在は書面開催とし、利用者状況や活動等の報告書を送付または持参している。利用者の状態を気にかけてもらったり、職員への激励の声が委員から届いている。質問や意見等についても、運営に活かすよう努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村とは困った事や事故報告等に関して積極的に相談をして、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 市担当者には運営推進会議の議事録を持参し、事業所の取り組みや利用者の状態などを報告し、助言や指導を得ている。新型コロナ最新情報や感染防護具等の配布を受け、感染予防に取り組んでいる。困難事例なども相談し、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束と虐待の研修を2名受講。管理者は多治見市の虐待委員会の委員をしているので、多治見市の会議に年2回出席している。当施設において虐待行為に当たるものはないか常に把握に努めている。以前つなぎ服を着用していた方がいたが亡くなられ、現在つなぎ服の使用者はいない。 | 身体拘束廃止委員会を定期的開催し、ヒヤリ事例を課題に話し合っている。行政の会議にも参加し、事業所の取り組みをもとに職員間で身体拘束、虐待防止について意見交換を行っている。以前は安全の為に拘束が必要な利用者もあったが現在は無い。職員は拘束の弊害を正しく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | どのような行動、言動が虐待に相当するのかを会議の中でスタッフに説明し虐待に対する意識を高めている。職員同士でお互いに気付いた事は注意し合いながら対応の仕方を考えて実践している。 | | |

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者やケアマネが研修に参加して活用に備えている。以前日常生活自立支援事業を利用して入居者がいて社会福祉協議会、市の高齢福祉課と連携し支援した経験もある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 丁寧に説明し起こりうるリスク、重度化についての対応等について詳しく説明している。不安な事がないか等、具体的にこちらから尋ね納得して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御家族様が面会時やご来所の際には、御家族様が意見を話しやすい雰囲気作りに努めている。また電話やメールの際には意見を引き出せるようにしている。玄関にご意見箱も設置している。 | コロナ禍においても、感染対策をした上で実施し、家族の希望を聞くよう努めている。面会が困難な家族には、毎月の便りと共に、電話等でも利用者の様子を詳しく知らせている。家族の希望に応じて、利用者の馴染みの人にも様子が分かる便りを送付している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議で意見を聞くようにしている。その内容を施設会議、又直接社長、施設長に伝えている。 | 代表者は、毎日、利用者の状態と職員体制を把握し、全員が笑顔で共に生活出来るよう取り組んでいる。職員として看護師の配置があり、他の職員も日々安心して支援ができています。働きやすい職場環境作りや資格取得支援に力を入れており、ホームページ内の採用情報ページからの応募もあり、採用に繋がっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者、管理者代理が現場の中で個々の勤務状況を把握して、社長や施設長に伝えている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者はスタッフの資格や経験、介護技術の実際の力量を把握し、フロア会議等で介護技術等の問題をテーマにし、社内研修を行っている。又新入社員が聞きやすい雰囲気作りに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 多治見市が開催するサービス事業者との交流会に参加して、他事業者との交流を続けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 御自分から想いを伝える事が出来ない方が多い為、御家族様から聞き取るようにしている。入居時、契約時に要望等を聞き取るようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の懇談で御家族様の想いを聴き、面会時や電話等で常に連絡し合い良い関係を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアマネからの情報や入居前の懇談で、支援を見極めて対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | それぞれの入居者様が何が出来るかを把握し、毎日の生活の中で出来る事をお手伝いして頂き、入居者様同士がお手伝いをしながらお互いにコミュニケーションを図れるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在面会を再開している。入居者様とご家族様が疎遠にならない様に、月一回ひまわり便りを送り御本人様の生活の様子、体調の様子をお知らせして情報を共有している。また面会に来やすい雰囲気づくりをしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナにて面会禁止期間中は、電話や手紙等を通して関係が途切れないようにしていた。面会が緩和になり、又こちらに会いに来て下さる事を期待したい。 | コロナ禍で馴染みの関係継続が難しい状況であったが、ドライブ等を計画し、利用者の自宅付近で車中弁当など食べるなど、工夫をしている。理美容師の訪問は継続している。また、地元の職員が地域の情報や馴染みの人を話題に利用者に声かけしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士が楽しくコミュニケーションをとれるようなレクを取り入れたり、会話が困難な方はスタッフが間に入りコミュニケーションを繋げ孤立しないよう支えている。又1階と2階と合同で行う行事も取り入れている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても関わりを大切にしている。退去された方の様子を見に行く事がある。看取りを実施して亡くなられた方の御家族様がひまわりを懐かしんで職員に会いに来られたり、ご相談やご紹介もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 御本人様からの御希望が聞けない方は、職員の毎日の関わりの中から声掛けをしながら把握に努めている。 | 新聞記事や広告、テレビ視聴時など、利用者が興味を示す内容を表情や会話の中から拾い、利用者の思いを把握するよう努めている。利用者の思いや願いが達成できるよう職員間で話し合い、利用者の笑顔を引き出す支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 御本人様や御家族様から今までの生活歴や生活環境等を聞き出し、又利用していた施設やケアマネより情報を提供して頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 共同生活の中でも、一人一人の生活のリズムの把握、身体状況を常に観察している。又会話困難な方においては、言動、表情から汲み取っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 御本人様の想いを聴き、御自分の想いを伝えられない入居者様は御家族様より想いを聞き出す。今までの生活、生い立ちから照らし合わせ、担当の職員を中心に会議で意見交換をして介護計画を見直し現状に合った計画を作成している。 | 管理者がケアマネジャーでもあり、日常的に現場に入り利用者一人ひとりの状態を把握している。ケアプラン作成時は医師の意見も取り入れ、職員間で話し合い計画を作成している。家族の意見は訪問時に聞き、希望を取り入れた介護計画を作成している。 | コロナ収束後には、家族の都合を聞いた上で、家族参加での介護計画作成会議開催が望ましい。利用者の現状と支援状況を確認してもらい、対面での意見交換と計画作りに期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の少しの変化や気付きは毎日の介護記録に残し、申し送りノートに細かく記載し職員全員で情報共有している。介護計画の見直しも、各専門分野が意見を出し合い見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 外部への受診は、御家族様のご要望により通院支援をしている。又個別で必要となった小物等も、御家族様の要望があれば購入をし、柔軟な対応を心掛けている。 | | |

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民間の理美容の提供を行っている。又現在はコロナ禍の為行事等が中止になっており行っていないが、以前のように演劇、大正琴の演奏、ピアノ演奏等ボランティアが再開されれば参加していきたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 御本人様、御家族様の希望を聞き、安心適切に医療が受けられるように支援している。現在全員訪問診療対応、内科以外基本は御家族様対応だが、御家族様都合が悪い場合のみ看護師対応にて付添い受診、結果等その都度御家族様に報告している。 | 契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明している。ほとんどの利用者が協力医を選択し、月2回の往診を受けている。また、看護師が日常の健康管理を行い、訪問看護ステーションや協力医と連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々入居者様と多く関わる介護職員が、入居者様の小さな変化、気づきは全て看護師に伝えている。急変時も24時間対応している。又施設ナースと協力医の訪看との連携も出来ており、日々適切な看護が受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 情報を提供し、時々面会、状態を把握、御家族様とも連携、退院後に安心して暮らせるようにしている。又病院の相談員とも情報交換し主治医に直接聞くことも出来る。退院時にはカンファレンスに参加して安心して生活出来るように支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化については入居時に説明しているが、終末期のケアについては御家族様の想いに添える24時間体制の医療連携を整え、重度化指針の作成をしている。 | 重度化や終末期について、入居時に事業所指針を説明し同意を得ている。状態の変化時は早い段階で、医師と関係者、職員が話し合い、方針を共有している。看取り希望には指針をもとに利用者が穏やかに過ごせるよう研修を重ねながら、支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署が行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実施している。今後も定期的に訓練、研修を行う予定。事務所内にマニュアルが提示してあり、職員が何時でも目を通せるようにしてある。又事前に起こり得るリスクも入所時に説明し同意を得ている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアルを作成し年2回入居者様と共に消防署の協力で訓練を行っている。町内会に入会し現在はコロナ禍の為行えないが、地域の人と一緒に訓練し協力体制を築くよう心掛けている。 | 年2回夜間想定を含めて火災訓練を実施している。利用者の安全確保、関係機関への通報、器具の取り扱い等を行っている。反省会も行っている。地震水害対策についても話し合い、備蓄や補強用品を整え、定期的に点検を行っている。 | 火災訓練は定期的に取り組んでいる。地域密着の意義を踏まえ、コロナ収束後には、近隣との連携、理解を得られるよう、更に協力体制を築かれる工夫に期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様のプライバシーを損なわない対応を心掛けている。職員会議の折職員の意識向上を図っている。人格を否定するような対応をした職員には、現場で管理者、看護師、リーダーが注意するようにしている。 | 年間の研修計画では、プライバシー保護や傾聴など、利用者への基本的接遇を重視して学んでいる。尊厳と笑顔あふれる介護を目標に取り組み、常に優しく細やかな対応を心がけている。管理者や看護師は、職員の対応や言葉遣い等で気づいた事は、その場で注意し、正しく導くよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様が些細な事でも選択できるような場面を提供するよう心掛けている。言葉で意思を表せない方には表情や行動から汲み取り対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の生活の流れはあるが、その人のその時のペースや気分、体調に応じ極力その方に合った柔軟な対応を可能な限りしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の服の選択を出来る方はスタッフと一緒に選んだり、理美容も御本人様の希望する髪型と一緒に相談したりして、楽しみの一つとしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備、後片付けを入居者様に手伝ってもらっている。基本はメニューが決まっているが、時々入居者様の好物を聞き一緒にメニューを決めることもある。又クリスマス会やお誕生日、おせち料理等バイキング形式にして大変喜ばれている。 | 現在、食材は宅配サービスを活用している。家族や近隣から野菜などの差し入れも活用しながら、職員が毎日、手作りし提供している。利用者も出来ることを手伝い、おやつや行事食作りは利用者も楽しみながら、職員と一緒にやっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人一人の体調と1日の食事量、水分摂取量を把握している。入居者様の状態に合わせ食べやすい食事形態で提供している。水分をあまり摂られない入居者様には1日を通して確保できるように根気よく対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアの手伝い、介助を行っている。入れ歯の方は御自分で洗われた後、職員が確認して清潔保持している。夜間はポリデントに漬けて消毒している。 | | |

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を作成し一人一人の排泄習慣、リズムを掴み、オムツ使用を減らす努力をしている。入院されてオムツになった方で、帰設後オムツが外れ、トイレにて排泄できるようになった方もいた。 | 利用者の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄及び現在の状態を継続できるように支援している。昼夜共、声掛けで支援しているが、安全に配慮しポータブルトイレの利用者もある。適切な排泄用品についても、日々職員間で話し合っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝散歩をしたり、出かけたり(敷地内駐車場)又水分補給を十分するように取り組んでいる。下剤を使用している方には個々に応じた使用量、頻度で使用している、ヤクルトを毎日1本飲んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本は曜日を固定しているが、その方の体調や気分により入れ替えをしている。その方の御希望に添えるよう支援している。又ストレッチャー浴槽もあるので身体レベルに合わせて活用している。 | 入浴は週3回を基本にし、利用者の希望で柔軟に対応をしている。職員は利用者の自立を大切に、自分でできることはやってもらい、できない部分を支援し、常に見守りをしている。利用者とのコミュニケーションの場でもあり入浴が楽しめるように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は一人一人の生活習慣や体調に応じ休息をとってもらっている。又清潔で気持ちよく安眠できるよう入居者に担当スタッフを付け、寝具干し、シーツの洗濯を確実にやっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者全員の服薬している薬はスタッフ全員が何時でも把握、確認出来るようにしている。又服薬管理表を作成し、セット時にも与薬直前も声出し、ダブルチェックを行っている。薬の内容が変更になった場合は申し送りや口頭でスタッフと情報共有している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人が何が出来るかを把握し役割分担し、参加してもらい労いの言葉掛けをし次へと繋げる。又誕生日会や年間イベント等にも力を入れ楽しんで頂けるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的に御本人様の要望があれば、外への散歩は出かけている。又コロナ流行中も車でのドライブも何回か行き気分転換を図った。又コロナの流行を見つつ外出支援も再開していきたい。 | 感染予防のため、喫茶店や買い物へ出掛けることは控え、現在は近隣を散歩したり、外気浴等で支援している。利用者の筋力低下予防のため、専門職と相談しながら、階段の昇降やリハビリを兼ねたレクリエーションなど取り入れている。 | |

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在はお金所持を希望されている方がいない。今後も入所される方で御希望があれば今まで通り柔軟に対応していきたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入所者様のご要望だったり、日曜日等の休みの日等に御家族様に電話し、御本人様と代わり話す機会を設けている。又手紙等も御家族様から定期的に思い出の写真を添えて郵送して下さり何時でも見れるように居室に展示してある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 台所に居間兼食堂がありワンフロアになっている。フロアの一角に休むスペースが用意しており、必要な方は日中フロアベッドで休むこともある。壁には入居者様の作品が貼ってあり季節感溢れるフロアになっている。入居者様と職員の共同作品も貼ってある。 | 共用の空間は広く、福祉用具が必要な利用者も安全、安心に移動ができる。感染予防対策を徹底し清潔な環境作りを行っている。季節の花を飾り、利用者作成の雑壇や今年の干支作品等も飾っている。隣の幼稚園からは元気な園児の笑い声が聴こえ、暖かく家庭的な環境にある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下やフロアの一角に椅子やソファを設置し、くつろげる空間を作っている。又車椅子のまま外を眺められるようスペースを確保し、実際にそこから園児の遊ぶ姿を見たりし楽しみの一つになっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時に自宅での生活環境を変えず極力使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごして頂けるようにしている。又動線を考慮し死角となる居室で安全に生活出来る工夫をしている。 | 居室の表札は、名前と利用者の好きな花で表示し、覚えやすくしている。入居以来の作品や誕生会の思い出写真、家族写真を飾っている。クローゼットが設置され、整理整頓がし易く、広く安全に利用できる居室である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人でも出来る方には御本人様に分かりやすいように表示したり工夫をしている。認知機能が低下してきてても不安を取り除く為、スタッフが付き添う事で出来ることが多いのでその人のレベルに合った自立した生活が出来るよう工夫をしている。 | | |